

## 大分大学教育学部教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

### <教育課程の編成と教育内容>

教育学部では、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる 4 つの能力を学修するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施する。

1. 資質の高い教員の養成を目指し、「教養教育科目」（全学共通科目，外国語科目）と「専門教育科目」（課程共通科目，初等教育教科に関する科目，基本教職に関する科目，教育展開科目，特別支援教育に関する科目，特別支援教育コース展開科目，幼稚園教諭免許に関する科目，中学校教諭免許に関する科目，教育支援科目，卒業論文に関する科目）によって編成する。
2. 「専門教育科目」のうち，「基本教職に関する科目」，「教育展開科目」では，教員として求められる基礎的資質，知識・技能及び学校を取り巻く地域の教育課題への意識を涵養する。あわせて教育現場の観察や体験の充実により，教師としての自覚を形成するとともに，子ども理解と適切な指導や必要な支援を行うことができる力の充実を図る。
3. 理論と実践の往還を通しての学びができるよう，「教育展開科目」の中に「教員養成コア科目」を設定し，順次性のある体系的な教育課程にする。
4. 「初等教育教科に関する科目」，「特別支援教育に関する科目」，「基本教職に関する科目」，「中学校教諭免許に関する科目」等では，初等中等教育や特別支援教育に必要な教科内容の理解，学級づくり・授業づくりや，ICT を活用した教育の方法・技術の獲得を図る。
5. 校種や学齢など多様な特性を有する子どもの理解力，教科専門性と実践的指導力を高めるために，二つの主免（初等中等教育コースにあつては小学校教員免許，中学校教員免許または幼稚園教員免許，特別支援教育コースにあつては特別支援学校教員免許，小学校教員免許）に加えて，副免として幼稚園・中学校各教科・特別支援学校教員免許の取得に必要な授業科目の履修と教育実習を行う。

### <教育方法>

1. 4 年間を通じて複数の指導教員（メンター）が共同でクラスを担当するメンタリング・コーチングシステムによって，学生一人ひとりに対応した修学指導・学生生活指導を継続的に行い，早い段階からの教職への意識を高め，高い資質を備えた教員を養成する。
2. 学生の主体的な学修を促すために，専門的な知識・技能を学ぶ「領域及び保育内容の指導法，教科及び教科の指導法に関する科目」，「教育の基礎的理解に関する科目」，「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」においてアクティブ・ラーニングの手法を実施する。
3. 附属学校園や公立学校を活用した見学・体験・実習の授業科目において，グループでの討議や発表などを組み込んだアクティブ・ラーニングを実践することで，学校教育の現場や地域課題の理解向上，教師としての指導力・実践力を育成する。

4. 「教職ポートフォリオ」において、「履修カルテ」(教職に関する資質能力の達成状況)と「自己評価シート」(実践体験記録, 省察記録)の作成を行うことで, 教職に向けた4年間の学修履歴を可視化し, 自己の達成状況の把握と省察を行う。

#### <学修成果の評価>

1. 教員としての資質が身についているかを確認するために, 教職ポートフォリオ(履修カルテ・学生による自己評価シート)の内容を指導教員(メンター)が定期的に検証する。
2. 授業科目の成績分布の検証作業(や授業評価アンケート)を通して, 授業理解度や学修状況を検証する。
3. 学部卒業予定者に対してカリキュラムや授業内容, 施設設備, 学生支援体制に対する満足度などを問うアンケート調査を行い, 学生による学部教育に関する評価を把握する。
4. 教職ポートフォリオ, 授業の成績分布、学生によるアンケート, 附属学校園・公立学校・教育委員会からの評価などのデータを蓄積し、教員採用試験の結果(採用数, 合格率等)を検証することで, 教員養成機能の評価を行うとともにカリキュラムの改善を継続的に行う。

学修成果の評価は, アセスメント・チェックリストにより実施する。

大分大学 アセスメント・チェックリスト

学部	教育学部
----	------

最終更新日	令和2年(2020年)9月30日
-------	------------------

ディプロマ・ポリシー												
1	教職に対する使命感や責任感, 教育的愛情を備え, 社会人・職業人としての規範意識やモラル感覚を身につけた行動ができる											
2	教科や教職に関する確実な専門的知識を有し, 隣接する校種を見通しながら, 小学校や特別支援学校における教科指導, 生徒指導, 学級経営等を的確に実践することができる。											
3	活用的学習や探究的学習などの新たな学びを工夫・デザインすることができ, 新たな知識・技能を積極的に学び続ける姿勢を持っている											
4	学校の多様な課題に対して, 学校組織の一員として考え, 行動し, 地域住民などと連携・協働することができる。											
5												
6												

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法
								1	2	3	4	5	6			
1	実施中	客観試験	教員採用試験	6月-9月	毎年	卒業予定者	合格率	●	●	●	●			就職進路委員会	各県教育委員会	合格率により, 目的養成としての機能評価およびカリキュラムの総括的な質的指標とする。
2	実施中	成績判定資料	残留学生数と理由	3月	毎年	4年生	残留学生数と理由		●					教務委員会	教務委員会	残留学生について, 留学以外の理由をチェックし指導教員と連携して学生生活委員会を通じて指導する。
3	実施中	成績判定資料	単位取得状況調査	9月, 3月	毎年	全学年	単位取得状況不良	●	●	●	●			学生生活委員会	学生生活委員会	成績不良者について, 指導教員を通して面談を行い, 面談結果を収集, 指導を行う。
4	実施中	質問紙	学部改善アンケート	1月	毎年	卒業予定者	カリキュラム満足度, 学生支援満足度, 施設・設備の満足度	●	●	●	●			卒業予定者	教務委員会	結果を翌年以降のカリキュラムおよび学生指導体制の改善に利用する。
5	実施中	成績分布表	成績分布状況のチェック	8月-11月	毎年	全学年	偏りの大きな科目のインタビュー調査	●	●	●	●			教務委員会	教務委員会	成績評価の偏りを確認し, 厳密な評価が実施されているかどうかの確認やカリキュラム改善を行う
6	実施中	質問紙	メンタリング・コーチングシステムに関する調査	2018年度5月-2019年は分析実施)	単年度	1年生から3年生	メンタリング・コーチングシステムの教職への意識・意欲向上への貢献について		●					学生	評価分析室	中期目標に挙げたメンタリング・コーチングシステムによる教職への意識・意欲向上についての根拠資料収集のための基礎資料
7	実施中	教務情報システムでの入力	履修カルテ	8月, 2月	毎年	全学年	教員養成カリキュラムの教員資質向上評価	●	●	●	●			授業担当教員	教務委員会	義務化した履修カルテの自己評価シート入力を各指導教員がチェックし, DPに基づいた教員資質が身につけているかどうかを確認する。4年生の教職実践演習にて資料として活用し, 教員資質の確認を行う。